



「虹のプレゼント」

令和

3

年度版

2021

知りたい！

ひと

まち

自然

印西の環境



令和3年度版 印西市環境白書 概要版

千葉県
印西市



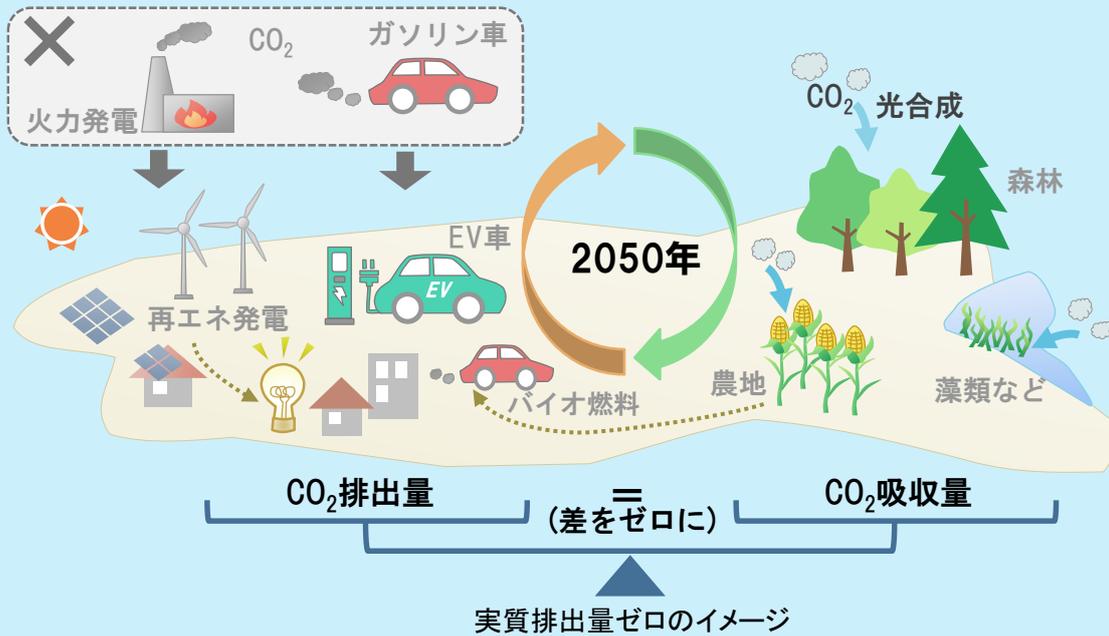
「春 爛漫」

ゼロカーボンシティ

「ゼロカーボンシティ」とは、2050年までに二酸化炭素（CO₂）排出を実質ゼロにすることを指す旨を首長自らが又は地方公共団体として公表された都道府県や市町村のことです。

「排出を実質ゼロ」というのは、二酸化炭素の「排出量」から、森林などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。

令和2（2020）年10月の政府の宣言「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを踏まえて、2050年二酸化炭素実質排出量ゼロに取り組むことを表明した地方公共団体（ゼロカーボンシティ）が増えてきています。



これまでに表明した自治体

令和4年2月末時点で、598自治体（40都道府県、365市、20特別区、144町、29村）が表明しており、千葉県においては20市が表明しています。本市でも、ゼロカーボンシティを表明することについて、検討しています。

ゼロカーボン に取り組もう！

- ・再生可能エネルギー由来の電気の購入
- ・クールビズ・ウォームビズ
- ・省エネ家電の導入
- ・宅配サービスをできるだけ一回で受け取る
- ・自転車や公共交通機関による移動

- ・太陽光パネル、蓄電池・蓄エネ給湯器の導入・設置
- ・食事を食べ残さない、食品ロスの削減
- ・長く着られる服を選ぶ
- ・マイバック、マイボトル等を使う、家庭ごみの減量

など

参考：環境省脱炭素ポータル「ゼロカーボンアクション30」アクションリスト

ゼロカーボンシティについて
詳しく知りたい人は…

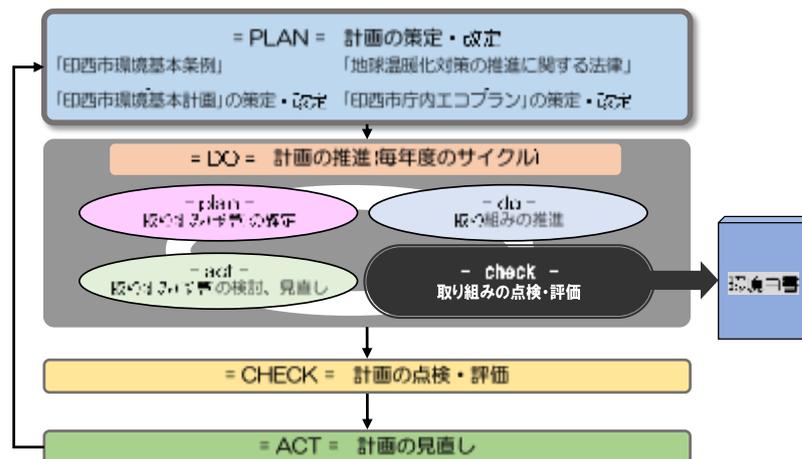
環境省：<https://www.env.go.jp/policy/zerocarbon.html>

脱炭素ポータル：https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/index.html

位置づけ

印西市環境白書は、環境基本計画と庁内エコプランの年度ごとの取り組み状況や目標の達成状況の報告書として、市民の皆様にご公表するものです。また、各種の測定データなどの市の環境に関する情報をとりまとめたデータ集として、広く周知するものです。

令和3年度版の環境白書は、主に令和2年度の実績に基づき、作成しています。



印西市環境基本計画に掲げる「将来環境像」と達成のための「5つの基本目標」

将来環境像

「ひと まち 自然」が調和し

豊かで安心できる環境で暮らせるまち いんざい

基本目標 1 【自然環境】	緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して	・・・2 ページ
基本目標 2 【生活環境】	安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して	・・・4 ページ
基本目標 3 【都市環境】	都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して	・・・6 ページ
基本目標 4 【地球環境】	低炭素社会の構築に向けた、 地球環境に負荷を与えないまちを目指して	・・・8 ページ
基本目標 5 【人づくり】	環境配慮行動の実践者を拡大し、 みんなで環境を育てるまちを目指して	・・・10 ページ

※印西市環境基本計画は、平成25年3月に策定し、令和3年度までを計画期間としています。



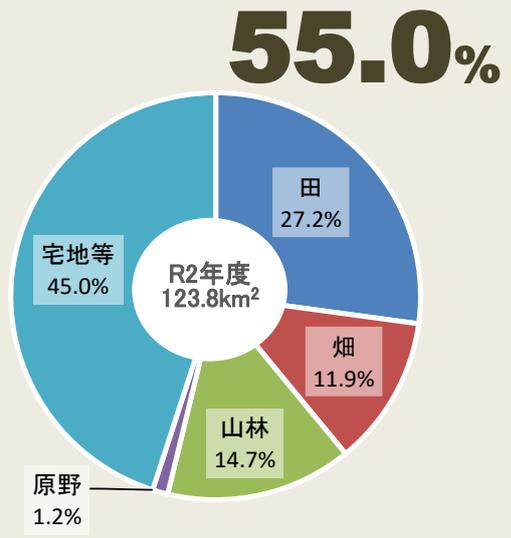
基本
目標 1

緑や水辺が身近に感じられる、 自然と共生するまちを目指して

緑の保全

本市は農地や樹林地が多く、里山の緑に恵まれています。宅地開発や農家の後継者不足などによる緑の減少が心配されています。

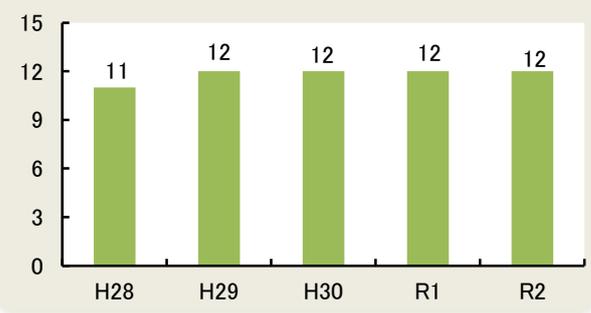
● 田、畑、山林、原野の割合



市では、市民参加による里山保全活動の充実を図るため、市民活動団体が実施する里山関連の行事を支援しています。

令和2年度の市内の里山保全活動団体数は 12 団体、里山関連イベントの開催数は 9 回でした。

● 里山保全活動団体数の推移 (団体)



● 樹林地などの保全

市内には人と自然との長年の関わり合いによって形成されてきた里山が多く残されています。

この里山は樹林地、田畑、草地、水辺などいろいろな環境が混ざりあって、豊かな生態系を育む場としても注目されています。



◀ 草深の森

「いんざい自然探訪」は、子どもから大人まで楽しみながら環境を学ぶことができる自然観察会です。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年と比べ回数は限られましたが、里山観察会などを2回開催し、延べ 28 人にご参加いただきました。



▲ 武西の里山風景



▲ いんざい自然探訪 晩秋の里山に浸ろう

●農地の保全

農業は本市の主要産業であり、季節ごとの田園風景は市を代表する景観を形作っています。

本市の農産物を市内で消費する**地産地消**を推進するため、市内直売所に対して、販売促進に係る資材費の補助金交付を行いました。



▲ 農産物の地産地消を推進しています

水辺環境の保全

本市は湖沼やその支流などたくさんの水辺に恵まれたまちです。

市では、水辺とのふれあいの機会を提供するため、県や流域市町と協力して水辺環境保全のためのイベントや河川の清掃活動を実施しています。

令和2年度は、手賀沼周辺において市民参加による湧水調査及び水質・水生生物調査を実施し、市民の皆様とともに良好な水辺環境の維持に努めています。



▲ 師戸川で繁茂するナガエツルノゲイトウ

生きものの生息・生育空間の保全

市内には、絶滅が危惧されている重要な種を含む**植物 967種、動物 892種**が確認されていますが、近年は在来生物の生息・生育を脅かす恐れのある「特定外来生物」の占める割合が高まっています。

ヤマトシリアゲムシ ▶



◀ クイナ



ワニグチソウ ▶



◀ トウキョウダルマガエル



● 生きものの確認種数

分類群		確認種数(注目種)	
植物		967	(55)
動物	哺乳類	10	(2)
	鳥類	100	(48)
	爬虫類	12	(10)
	両生類	8	(5)
	昆虫類	737	(39)
魚類		25	(7)

令和2年度自然環境調査

< 外来生物と有害鳥獣の違いは？ >

外来生物とは、本来はその地域にいなかったのに、人間の活動によって意図的・非意図的に持ち込まれた生物のことです。一方、有害鳥獣とは、農林水産物等に被害を与える場合や生活環境等を悪化させる野生鳥獣のことです。そのため、有害鳥獣には外来生物だけでなく、在来生物も含まれます。

代表的な外来生物または有害鳥獣

- アライグマ
- イノシシ
- ハクビシン

アクション！

緑や水辺を守り、自然と共生するために・・・

- 里山の現状や保全の仕方を理解するとともに、維持管理活動や観察会に参加します。
- 自然にやさしい有機栽培や、低農薬の農産物及び地産地消の商品を購入します。
- 生きものの生息環境の理解と保全に努めます。
- 家庭で飼っているペット等の生き物は最後まで面倒をみます。



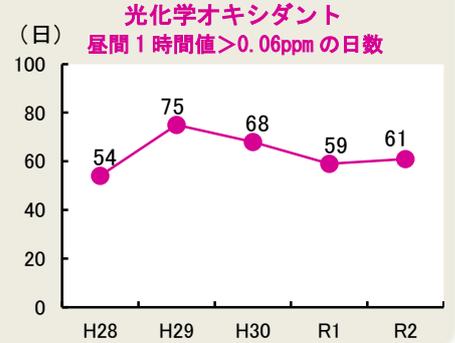
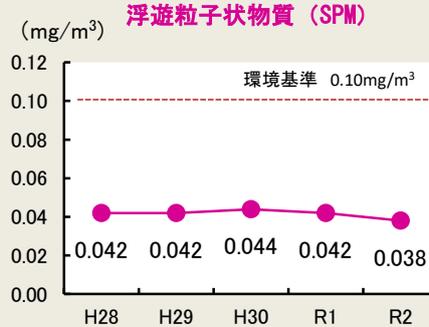
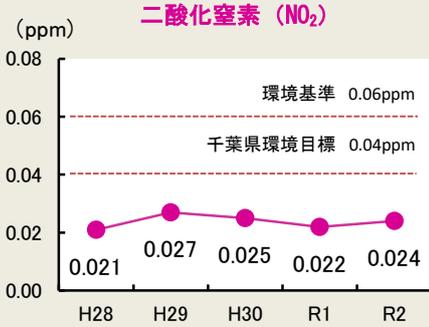
基本目標 **2**

安心・安全に暮らせる、 環境に負荷を与えないまちを目指して

大気環境の保全

● 大気汚染物質濃度（高花測定局）

光化学オキシダント
環境基準超過日数 **61** 日



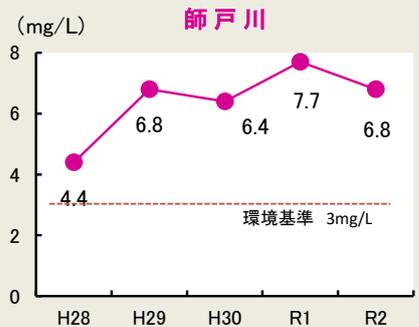
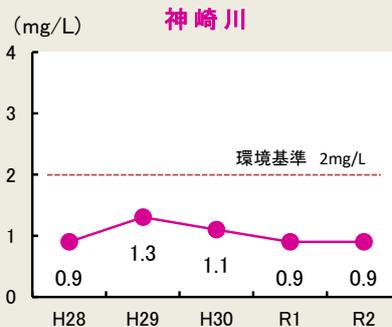
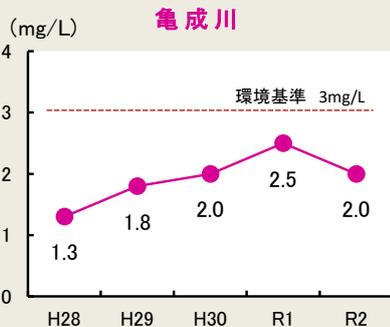
千葉県が設置する一般環境大気測定局（高花地区）では、大気質の測定を実施しています。二酸化窒素（NO₂）や浮遊粒子状物質（SPM）は環境基準を達成している一方、光化学オキシダントは環境基準を達成していません。

市では大気汚染の原因の一つである自動車からの排出ガスを抑制するため、環境にやさしい運転「エコドライブ」の普及を推進しています。

水質環境の保全

● 河川のBOD濃度

師戸川で環境基準を超過



市では、市内 9 河川で年 4 回の水質測定を行っています。環境基準が設定されている 3 河川の BOD 濃度は、亀成川、神崎川では例年通り環境基準を達成しています。一方、師戸川は平成 27 年度に環境基準を達成しましたが、その後は周辺環境の影響などにより、再び環境基準を超過しています。河川の水質を改善するために、公共下水道の整備や整備済み地区の水洗化、合併処理浄化槽の設置補助に取り組んでおり、その普及率は上昇しています。

● 下水道普及率 ● 合併処理浄化槽普及率

83.0% **82.8%**



騒音・振動の防止

市では、主要幹線道路において定期的に道路交通騒音の調査を実施しています。

令和2年度の道路交通騒音の測定地点は、千葉竜ヶ崎線、市川印西線、柏印西線、市道（2地点）の5地点を対象として実施しました。その結果、柏印西線を除く4地点において環境基準を達成しました。

● 道路交通騒音の測定地点



4地点で環境基準値を達成したよ！



印西市環境キャラクター
エコネ



定期的に空間線量率
を測定しています

有害物質対策

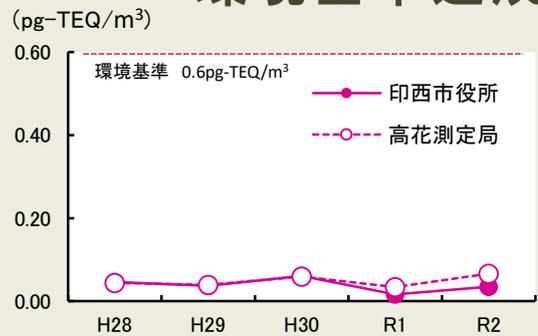
● 有害化学物質の適正管理

身のまわりにどんな化学物質があるのか、またどんなリスクがあるのかを知ることは化学物質を上手に利用するために必要な知識です。例えば、殺虫剤や洗剤などは用法・用量に注意しないと、知らぬ間に体の中に有害物質を取り込んでしまう危険性があります。

市では、大気中のダイオキシン類濃度を定期的に調査しており、令和2年度はいずれも環境基準を達成しました。

● 大気中のダイオキシン類濃度

環境基準達成



● 放射性物質に対する安心・安全の確保

放射性物質による環境汚染に対しては、国や県など関係機関と連携しながら除染等の対策を進めてきました。

市民が安心して生活できる環境づくりのため、市では東日本大震災当初から引き続き測定している市内 172 箇所の公共施設等で空間線量率の測定を行い、結果を広報やホームページ等で公表しています。なお、令和2年度は、国が示す基準値 $0.23 \mu\text{Sv/h}$ を超える箇所はありませんでした。

アクション！

環境に負荷を与えず、安心・安全に暮らすために・・・

- 低公害車を購入・使用するよう努め、環境にやさしい運転(エコドライブ)を実践します。
- 食器等を洗う際には、洗う前に油分や汚れをふき取り、汚水を出さないように努めます。
- 家庭で使用する化学物質などの情報を収集し、適切に活用します。

環境美化の推進

●環境美化活動の推進

市では、環境美化意識の高揚を図るため、市民団体や事業者と協力して「ゴミゼロ運動」、「クリーン印西推進運動」などの活動を実施しています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、ゴミゼロ運動は中止となりましたが、各団体の判断によりクリーン印西推進運動が実施され、参加者は延べ 25,386 人にのぼり、合計 16,480kg のごみが回収されました。

ポイ捨てをなくし、まちを美しく保つためには、一人ひとりが美化意識を向上させることが重要です。市では、重点区域での啓発やパトロールを実施し、禁止行為の指導件数は 95 件、過料件数は 0 件でした。

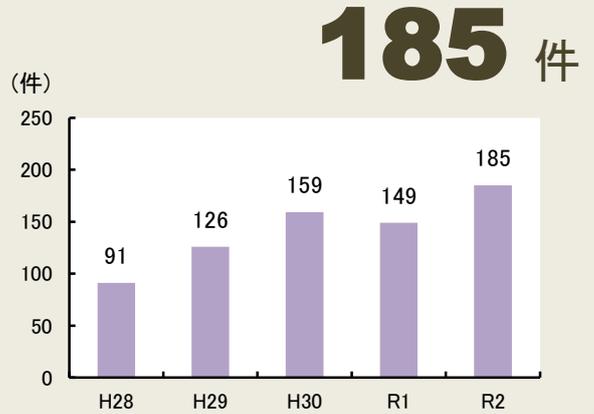


▲ クリーン印西推進運動を実施



●不法投棄の防止

● 不法投棄発生件数



令和2年度に市が把握した不法投棄発生件数 185 件のうち、59 件は市民からの通報によるものでした。市民の皆様による監視の目が**不法投棄の抑止・発見**につながっています。

185 件の内訳をみると、家庭ごみが最も多く (65 件)、家電製品なども多くなっています。

市では、パトロールの実施や監視カメラの設置により、不法投棄の防止に努めています。

< 令和2年度の不法投棄物内訳 >

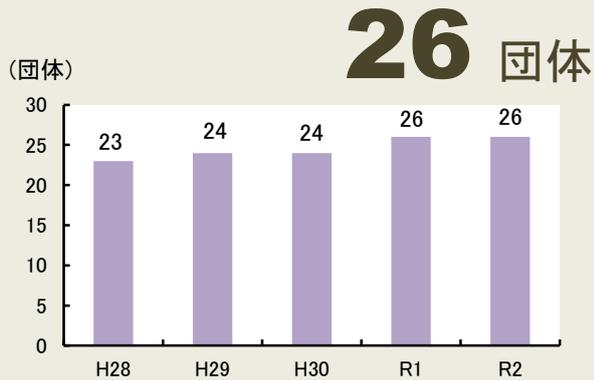
- 1位 家庭ごみ・・・65件
- 2位 家電製品・・・52件
- 3位 家具・・・21件



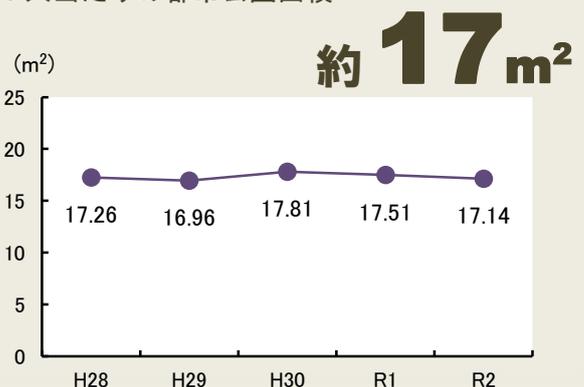
▲ 監視カメラの設置を強化しています

緑うるおうまちづくり

● 公園美化活動協定締結団体数



● 1人当たりの都市公園面積



市では、公園美化活動を行う団体に対して、活動に必要な物品や用具を貸与・支給するなど、各種支援を実施しています。令和2年度の美化活動協定締結団体数は26団体となりました。

また、市民の皆様のご家庭での緑化推進を支援するため、市の花であるコスモスの種の配布を行っています。

市内には、総合公園から都市緑地まで184箇所の公園があります。市民1人当たりの都市公園面積は約17m²で、千葉県全体(約7m²)、国全体(約11m²)の数値を大きく上回っています。



歴史・文化の保全

市では、市内の遺跡や史跡などの文化財を守るだけでなく、観光事業とも連携して地域の歴史・文化の周知に努めています。市内の指定文化財は、国指定文化財6件、県指定文化財17件、市指定文化財26件の合計49件で、他に国登録文化財が1件あります。

令和2年度は道作古墳群の見学会や印旛歴史民俗資料館における歴史や文化に関する講座などのイベントに約143人が参加したほか、本埜地区石造物調査報告書刊行に向けた準備を行いました。

また、市史への理解や市史編さん事業の状況を伝えるため、「印西市史 資料編 近現代1」を刊行しました。



< 印旛歴史民俗資料館ってどんなところ? >

印旛歴史民俗資料館は本市の各種歴史資料の調査研究・収集・保管・活用等の事業を通じて市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するために設置されました。



▲ 印旛歴史民俗資料館

アクション!

美しく、快適なまちにするために…

- ごみやタバコのポイ捨ては絶対にせず、ペットの散歩の際にフンなどは必ず持ち帰ります。
- 「ゴミゼロ運動」「クリーン印旛推進運動」など地域の清掃活動に積極的に参加します。
- 地域の祭りや伝統行事に積極的に参加します。

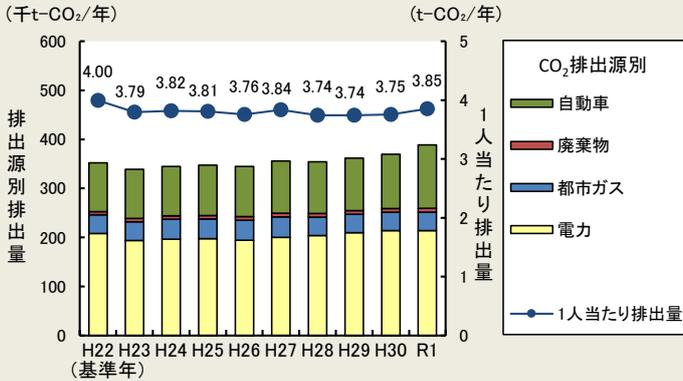
低炭素社会の構築に向けた、地球環境に負荷を与えないまちを目指して

再生可能エネルギーの利用促進

● 年間二酸化炭素 (CO₂) 排出量

市民
1人当たり

3.85t-CO₂

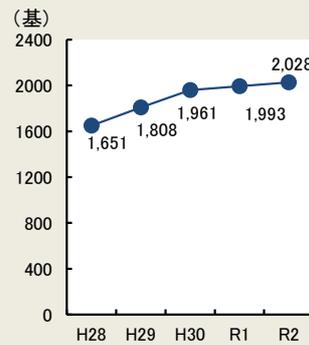


● 再生可能エネルギー設備の補助基数 (累計)

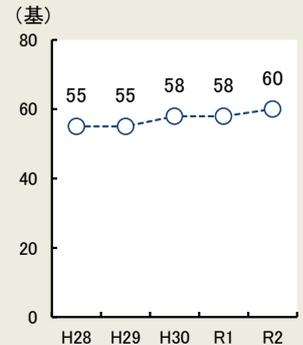
2,028 基

60 基

太陽光発電システム



太陽熱利用システム



令和元年度の本市における二酸化炭素 (CO₂) 排出量は、388,881t-CO₂ で、市民一人あたりの排出量は 3.85t-CO₂ となりました。基準となる平成 22 年度と比較すると、わずかに減少しています。

市では、一般家庭における再生可能エネルギーの利用を促進するため、平成 17 年度から太陽光発電システムや太陽熱利用システムの設置補助を実施しています。令和 2 年度の補助件数は、太陽光発電システム 35 件 (累計 2,028 件、出力合計約 9,327kW)、太陽熱利用システム 2 件 (累計 60 件) となりました。

また、その他の住宅用省エネ設備等の補助では、家庭用燃料電池システム (エネファーム) 149 件、定置用リチウムイオン蓄電システム 73 件を補助しました。

市の施設では、再生可能エネルギー設備の優先的な導入を推進しており、市役所屋上に太陽光発電システム (10kW) を設置しています。他に、松山下公園総合体育館に 10kW、大森小学校に 10kW、内野小学校に 20kW、牧の原小学校に 45kW の太陽光発電システムを設置しています。



◀ 市内公共施設に設置された太陽光発電システム

省エネルギー対策

「ふれあいバス」など公共交通機関の利用促進や公用車への低燃費車の導入、公共施設におけるグリーンカーテンの設置 (41 施設) など、市では率先して省エネルギー化、二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいます。



▲ 公共交通の利用促進が二酸化炭素の排出抑制につながります

ごみの減量化・資源化の推進

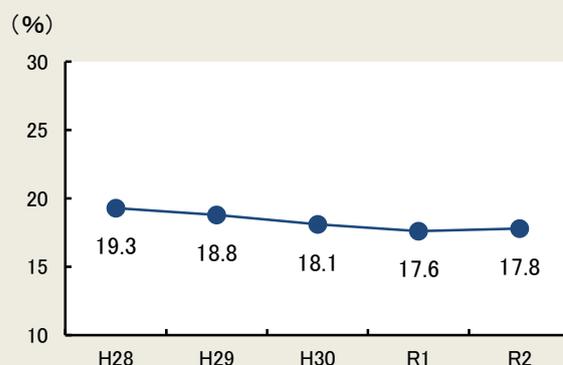
● 1人1日当たりのごみ排出量

884g



● ごみの総資源化率

約 18%



令和2年度の1人1日当たりのごみ排出量は884gとなり、前年度の877gから7g増加しました。総資源化率は約18%で、平成25年度以降は緩やかに減少しています。

● ごみの減量等に関する学習機会の充実

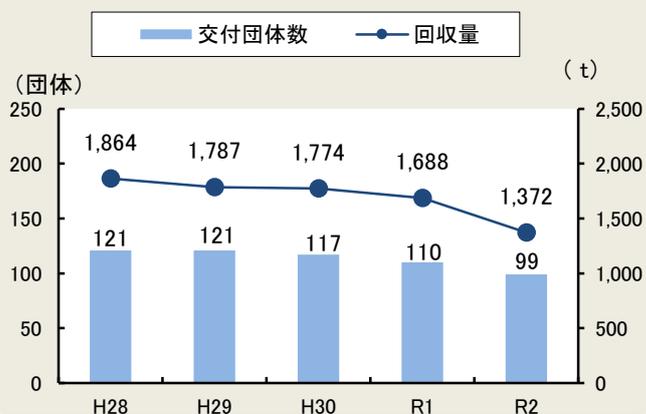


▲ ごみ減量化・リサイクルに関する出前講座を実施

ごみの資源化や適正処理も重要ですが、最も優先されるべき取り組みは「ごみを出さないこと」です。市では、広報紙やホームページを通じて、ごみの減量意識や適正排出に関する情報発信を行うとともに、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い「ごみ・リサイクル施設等見学会」、「いんざい環境フェスタ」などの事業は中止となりましたが、ごみ減量化説明会を3回(169人)開催し、啓発に努めました。

● ごみの減量・リサイクルの推進

● 有価物集団回収交付団体数と回収量



市では、資源として再利用できる有価物を集団で回収している町内会や子ども会、高齢者クラブなどの団体に対する支援を実施しています。令和2年度の有価物集団回収の登録団体数は99団体、回収量は1,372tとなりました。ただし、団体数、回収量は前年に比べると共に減少傾向にあります。

アクション!

地球環境を守るために...

- 「環境家計簿」などを通して電気、ガス、水道、ガソリンなどの省エネルギーに努めます。
- 外出の際には徒歩や自転車、公共交通機関を利用するよう努めます。
- 不要な商品を購入しないように努め、商品をできる限り長く使用します。

環境配慮行動の実践者を拡大し、 みんなで環境を育てるまちを目指して

環境教育・学習の推進



▲ 本埜公民館で野鳥観察会を開催

環境問題解決の第一歩は、一人ひとりが環境について学ぶことです。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年と比べ回数は限られましたが、本埜公民館で野鳥観察会等を開催しました。

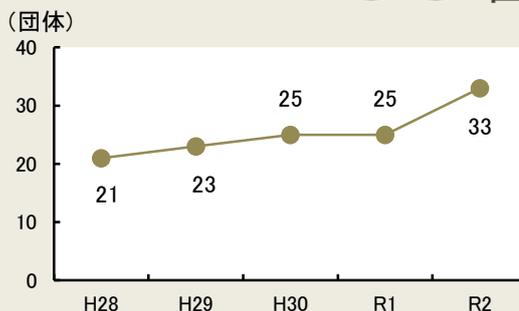
将来の印西市を担う子供達への**環境教育**の推進を図るため、小中学校の図書室では宮下文庫の中で環境教育に関する蔵書の紹介や活用に関する支援を行いました。学校では学校支援ボランティアの活用により、児童生徒へ向けた「人と自然とのかかわり」の学習支援を行いました。

市民や事業者の環境配慮行動の推進

市では、市民・事業者・市が協働し、様々な立場から意見交換をする場として環境推進市民会議と環境推進事業者会議を設置しています。令和2年度は環境推進市民会議を計5回、環境推進市民・事業者合同会議を計4回開催しました。

● 環境活動団体数

33 団体



市内で活動している環境活動団体数は令和元年度より8団体増加し33団体となりましたが、依然として、団体構成員の高齢化に伴い、団体を維持することが困難な状況は続いています。

アクション!

みんなで環境を育てるために...

- 環境に関するイベント、施設見学会等に積極的に参加し、環境の現状を理解し学びます。
- 環境に関して得た情報を家庭や子どもたちと話し合い、実践につなげます。

もっと! 知りたい人は

「令和3年度版 印西市環境白書 本編」
「印西市環境基本計画」
をご覧ください。

行動してみたい人は

「印西市環境行動指針」
日常生活の中の環境配慮行動を掲載しています。

「広報いんざい」

環境に関するイベントや講座開催をお知らせしています。

令和3年度版 印西市環境白書(概要版)

令和4年3月発行

発行: 印西市 環境経済部 環境保全課
〒270-1396 千葉県印西市大森 2364-2

TEL: 0476-33-4491

<https://www.city.inzai.lg.jp/>